

審 議 会 会 議 録 要 旨

会 議 名 称 第9回伊那市総合計画審議会
日 時 令和5年12月4日(月) 午後1時30分 から 3時30分 まで
場 所 伊那市役所 多目的ホール
出 席 者 委員20名(欠席者8名)

○協議事項

- (1) 基本計画第6章・土地利用計画について(確認)
- (2) 全体を通しての意見について(協議)
- (3) 全体まとめ
- (4) その他

○主な意見・質疑

(1) 基本計画第6章・土地利用計画について(確認)

異議なし

(2) 全体を通しての意見について(確認)

(事務局)

前回の審議会において、全体を通していただいた意見に関して、今回、事務局及び各部局の考え方等をお示しするべきものについて回答する。

なお、この場で回答する意見だけではなく、委員の皆様からいただいた全ての意見は、事務局及び各部局長、策定ワーキングチームにおいて共有し、参考にさせていただく。

(委員)

前回、欠席したため、全体に関して意見を述べたい。

P107「5-2-1生涯学習」において、以前に「市民大学」を「まほら伊那市民大学」と修正をしていただいたが、これに関連してP109にも「市民大学」「シニア大学」という記載があるので、同様に「まほら伊那市民大学」「県シニア大学」へ修正していただきたい。

また、同じ文中に「受講者が公民館での講座講師などを行えるように取り組みます。」とあるが、「受講者が公民館での講座講師などに反映できるように取り組みます。」のほうがよいのではないか。

P98「5-1-1学校教育」-【後期基本計画における施策と展開方針】-5 学校・家庭・地域の連携強化にある、「○総合的な学習の時間」や「暮らしのなかの食」、キャリア教育など、「のキャリア教育にも()をつけたほうがいいのではないか。同様にフィンランド教育にも()をつけたほうがいいのではないか。

P46「3-2-4障害者福祉」-【前期基本計画での主な取組】の中で発達障害という語句が削除され、多様な障害のあるという表現に変わったが、教育の現場では発達障害の子どもへの対応が大変であるので、発達障害などの多様な障害としてはどうか。発達障害という言葉はP103等、その他の箇所に出てくるし、教育現場の状況を考えても発達障害という言葉が削除してしまうことに抵抗がある。

(事務局)

ご指摘いただいた用語等については、前後の文脈等をみながら修正すべきものは修正したい。発達障害の語句の削除については、審議会の中で他の委員からいただいた意見を基に修正を行った経緯があるので、他の箇所の記載も含めて担当部署と確認をしたい。対応については、事務局にお任せいただきたい。

(委員)

どのようなメンバーを集めるのかということと、できあがった後にどう伝えていくかという入口と出口の部分は、ここで話すこと以上に大事ではないかという意見もでていた。こういう人を選びますとか、SNSを使って発信しますというやり方の部分を市の中だけで決めると、結局、そういう枠の中で収まってしまう。どのような人を集めたらいいとか、どういった発信方法をしたらいいかということ自体を、例えば、中学生や高校生に問いかけてみたり、今までと違う発想を見出したらいいのではないかと感じた。

(事務局)

ご意見を参考にする中で、多くの市民の皆さんに伝わりやすくなる方法を検討していきたい。

(会長)

発信するのは市の職員であるので、いろいろな取組をしたり、情報発信について研究していると思う。しかし、それでもすごい速度で情報化は進んでいくので、カバーしきれない場合もあるということで提案いただいたと思う。全部の人の意見を聞くのはなかなか難しいと思うが、いろいろな発信方法を研究する中で、若者の意見を聞くのも一つの方法として念頭に入れていただけたらと思うので、事務局には検討いただきたい。

(3)全体まとめ

(会長)

委員1人1人からこの審議会あるいは総合計画についての感想をいただきたい。

(委員)

総合計画にまちづくり指標等が謳われていることを審議会に参加して初めて知ったが、そういった内容を市のそれぞれの担当が本当に知りえているのか。様々な運営委員会に出席しているが、その目標値が頭にあって、どうしていくということがなかなか見えない。関係部署は当然のこと、地区まで内容が降りるように進めてもらいたい。

(委員)

私は区長ということで、充て職で参加している。審議会委員のことは、はじめのうちは非常に悩み、総合支所に聞いたら、副区長会長の充て職だと言われたが、はたして私でいいものなのかと思った。もっと見識のある人もいる中で、区長だからという充て職でいいのか。検討していただきたい。

(委員)

これまで自分が携わってきたことには問題意識があったが、他の分野になるとわからないことが多く、勉強させてもらった。やはり、それぞれの立場で意見を出すことが大事だと思う。

今後は、作り上げた計画がどのように反映されるかが重要である。長谷地区の区長会長の立場で考えると、長谷地区は過疎化が進んでいて課題がたくさんあり、全てクリアす

ることは到底できないだろうが、ここに住んでよかったと住民に思ってもらうことが大事なので、そういった視点で物事を考えていかないといけないと感じている。

(委員)

今回、最も嬉しかったことは、区の在り方を見直さないといけないということを前期計画の時から言ってきた中で、企画部長が区の在り方を見直す時期にきていると言ってくれたこと。今、南箕輪村でも村長がYouTubeで行政区の在り方を見直そう、これが無駄、これはどうする、ということをやっている。移住ということの本質的に考えた時に、インセンティブがあるからその地域に住みたいとかではなくて、こういう地域だから住みたいということ南箕輪村は打ち出そうとしているのだと思う。区はとても大切ではあるが、今の時代にフィットした在り方が検討できたらよい。

また、充て職という話が出たが、私は団体の代表ではなく女性にお願いしたいと言われて出ている。委員のバランスも女性や若い方など、いろいろなお願いの仕方はあると思うので、地域の中に元気でこういった場に出たい人がいれば、その人に出てもらうのもいいのではないかな。

(委員)

私もこうした会議に出席するのは初めてであり、知らないことばかりでとても勉強になった。伊那市はこういった方針で動いているということを知るいい機会であった。私も先ほど他の委員がおっしゃったように、この計画をどうやって広めていくか、進めていくか、ということの方が大事になってくると思う。これから5年間をこの計画に沿って実施していった後の評価を楽しみにしたいと思う。

(委員)

私もいろいろ勉強をさせていただいた。人権擁護委員会からの選出で参加したが、その立場をうまく活かせたかどうかという気持ちがある。委員の選出方法も検討をすればよいのではないかな。

せっかくこうした関わりをさせていただいたので、計画がどのように動いていくのか、個人的にも注目したい。

(委員)

内容が多岐にわたり多大な量になる中で、これをまとめている事務局には頭が下がる思い。専門的な内容で多岐に渡っているので、ここに出席されている方々の専門性が発揮され、また、人数が多いので、まとまりにくいところだが、この会議としては、うまくまとめられたのではと感じる。しかしながら、これから市民にどう広げるのかということへの心配が少しある。

(委員)

福祉という分野は総合計画の中では限られた部分ではあるが、今回、会議に参加させていただいて、まさに総合計画ということで、伊那市の進むべき道筋を知る事ができ、その中で福祉の分野をどのように進め、取り組むべきかを考えさせていただいた。総合計画の下に福祉に係るいくつかの計画があり、我々社協も策定に関わらせていただいているので、その方面から総合計画の推進に協力できればと思っている。

(委員)

前期後期の2回にわたり審議会に参加させていただいたが、総合計画と言われているだけあって非常に守備範囲が広く、どうしても表現が抽象的になりやすいので、言葉の表現としてこだわってしまうところがある。総合計画から具体化して個別計画に落としていく時に、伊那市の各部局は、総合計画との関連性を踏まえて展開するべきと思うので、その紐づけが重要であると感じる。相関性がなかったり、策定期間がずれたり等、バラバラに他の施策が展開されているところも見受けられるので、そうならないように配慮いただきたい。

もう一つは審議会のあり方だが、どうしてもこういう所はそれぞれの組織代表がそれぞれのバックグラウンドを持って参加するので、自分の業務に関連する施策については意見があるが、それ以外の分野について市民の皆さんの声を代弁できているのだろうかというところが不安であった。他の委員から意見が出ているが、策定段階での審議会委員の人選については、より広範で多様な市民の皆さんの意見が反映されるよう、在り方を含めて検討をされたい。策定段階におけるアンケートなりSNS等、様々な媒体からの市としての情報収集の段階での工夫を次回に向けて検討いただきたい。

(委員)

上伊那森林組合としては、上伊那の森林財産をいかに保全するか、また、今後長い将来にわたって木材が売れるかという課題への取組みと、木材ペレットのSDGsに適った利用を進めていきたい。

今回、審議会に参加して、総合計画というものを知った。私も2年ほど前に区長会長であったが、こういった計画の内容説明は受けたことがなかった。今の区長達もはたして知っているのか。

また、区の在り方について話しが出たが、私が区長であったときに、今の自治会の形が本当に理に適っているのか、自分達が暮らす地域はこの形でいいのかということで悩み、区民からいろいろな意見を聞いた。今は、ちょうど端境期であり、我々の世代と若い世代の考え方のギャップがかなりある。なぜそれが必要なのか、なぜこれが必要なのかと、区議会や隣組等の区の組織の在り方等について疑問が生じ、そういう形であるから入りたくないとなる。特に新しく住民になった方達が区に入ってくれないという問題がある。そういった問題を何回も区長会で話したりしたが、なかなか答えが見つからなかった。これから我々より下の世代の人たちが住みやすい伊那市、住みやすい区になるように進めていただけたらと思う。

(委員)

初めて審議会に参加したが、この審議会がどういったことを話すのか、どういったことを検討するのかが全くわからないまま参加し続けてしまった。元々、この計画は10年計画で建てられたもので、5年経ったところで見直しているということだと思うが、内容についての検討というのが、この場では全然話し合われていない気がする。5年経ったところでこう変わってきたので、今度はこういう方向に変えていこうといった検討がなく、文章の表現の仕方について検討しているだけで、内容そのものについてはまったく触れてない。この表現の仕方がおかしいのではないかといった意見が多かったと感じたので、そうした会議であるなら、文章に詳しい人たちが参加すればいいのではないかと。私は商工会の選出なので、商業・工業部門の内容について、もっとこうしてほしいといった内容の発言ができるのであれば、会議の雰囲気やそうした方向にもっていかけてもらいたかった。もっと積極的にそういう部分も私が突っ込んで発言すればよかったかも知れないかなとは思っている。

ただ、この総合計画というのは、私も今回初めて見させてもらったが、これは非常にいいもので、これをそれぞれの部門で今後5年間に活かしてやってもらえればよいと思う。

(委員)

高遠は桜が有名であるが、昔、先輩たちが桜の苗木を植えている頃は、自分達には何もないのに、その行動が10年後、20年後、30年後に反映されて、人がいっぱい来ている。ものすごく美德意識をもった先輩達だと思っているが、我々も、先輩の恩恵を受けるだけでなく、将来にどういった影響を与えることができるのかを考えていかなければならない。総合計画に関しても、5年後、10年後だけではなくて、20年後、30年後に先輩達よくがんばってくれたねって思ってもらえるようになっていたらいいと思う。

(委員)

会議で聞いている中では、こういった取組みをしてこういった目標をたてているのだということが非常にわかりやすかったが、文書だけではなかなかわかりにくかったというのが正直なところ。自分の専門分野でないところでは、そうしたことを感じた方もいらっしまったのではないかと思う。この計画をリーフレットの形で多くの方に見ていただくことになると思うが、上手く伝わるといいなと思う。

もう一点は、先ほど他の委員が述べた長い目で見るという事だが、これは難しいと感じた。5年という期間でも大変難しいことではあるが、ぜひこれに取り組んでいてもらいたい。

また、キャリア教育を始めた頃の子供達たちがそろそろ大学を卒業するくらいになった。キャリア教育と食育に取り組んで10年くらい経つので、こうして取り組んだことが本当にその子たちと地域のためになったのかということ長い目で見ていかなければいけないと思った。

(委員)

市内に19ある公立保育園の保護者代表として出席させていただいた。安心して預けられる保育環境があるだけで私は満足しており、皆さんのように立派な意見があるわけでもなく、出席させていただいたが、5年というスパンの総合計画が、審議の場によって構築されていくという本当に大事な場に関わることができたと感じている。これから、もっといろいろな分野で若い人の声が反映され、より良い伊那市を作るためのものになればいいなという思いでいる。

(委員)

充て職ということ言えば、私は宅建業界から充て職で都市計画審議会委員になり、今度は都市計画審議会の充て職で伊那市総合計画審議会の委員になった。私は前期と後期の2回参加させてもらった。私が参加することがこの審議会にとって良いことかはわからないが、私にとってはとても良かったと毎回思う。

先ほど他の委員がおっしゃった部分だと、前期計画の時の話しであるが、人権問題のテーマで同和問題のことだけが書かれていた。微妙なところであるので、そこに意見するのは迷ったが、バランスを欠いてないか、ジェンダーやいろいろな障害などの人権問題は他にもあるのではないかと、その意見を出したところ、それをきちんと計画に反映していただき、それどころかその翌年から人権講話がジェンダー関係をテーマにした講演会に変わった。それまでは毎年同和問題の講話だったが、それが変わったところを見て、自分の意見が実際にそうやって反映されているのだと非常に嬉しく思った。これが審議会委員を多くの人に経験してもらいたいと強く思う理由である。

ジャストアイデアだが、裁判員制度のように無差別の抽選で当たった人が審議に参加するのはどうか。裁判員制度のように仕事等で出席できなければパスしてもらえばよい。そこで当たれば、日当もでるし、やってみるかということもあるのではないかと思うので、半分ぐらいの委員をそうしてもよいのではないかと。公募委員というと、どうしても関心のある人になってしまうので、全く思ってもなかった人に当たるようなシステムというのがいいのではないかと思う。先ほど他の委員がおっしゃったように、語句に関しては得意な方をお願いすればよい。

市の職員たちにどれだけ伝わっているのかということに関して、以前、別の審議会に参加した際に、その審議会が形骸化していると感じたことがある。実際のところ、そういう審議会もあるとは思いますが、ここは本当に真剣な意見が交わされているということ、ここに出席している職員以外の職員にどれだけ伝わっているのかと思う。

先ほど若い方に意見を求めるようにといった話しをしたのは、5年計画ということは、計画の終了時には、現在、13歳の中学生が成人するわけであるので、今の段階で中学生の意見を聞くのは、逆に当然のことではないか。実際の体験として、先日、移住の窓口施設を作ってワークショップを開いたところ、お父さんと中学生の娘が来た。お父さんが連れてきたのではなくて、娘の方が喫茶店にあったチラシを見て、これに参加したいからお父さん連れていってと言って参加した。その参加した理由が、高校受験でこれからの進路を考える中で、伊那を出て行きたい気持ちもあるし、伊那を大切にしたい気持ちもあるから、

こういうイベントに極力参加するようにしているということだった。そういう子がいるのだなど非常に衝撃的で感動した。

(委員)

私も前期から審議会に参加させていただいた。総合計画としてはいいものができたと思う。この通りになれば伊那市も素晴らしいまちになると思う。

この計画は、市民の皆さんにも理解いただかなければならないが、実際に計画を実行していく立場である市長、市議会議員、市職員の皆さんがまず理解してなければ計画の意味がない。内容について、まずは行政の人達に理解してもらったうえで、市民に理解してもらおうというスケジュールで進めてもらいたいと思う。

(委員)

私自身も内容に関して詳しい部分がほとんどない。昨年度まで地域おこし協力隊という職で伊那市に関わらせてもらっていたが、教育やスポーツ等の自分が関わらなかった分野は本当に知らないことばかりだったので、とても勉強になった。

内容をどうやって詰めていくべきかは、次回の策定時に持ち越しになるかと思うが、意見として伝えたい。

冊子に金額を掲載するというを前回会議の振り返りで書いてあり、発行部数も記載するということだったが、それだと単純に金額がわかることになる。大体この冊子がいくらなんてことがわかると、この冊子のページ数が増えれば金額が増えるのだと思い、複雑な気持ちになる。この審議会を通じてどちらかという文字が増えたと思うが、その分印刷費も増えたのだと。そこで、次の策定の機会に関する話しになるが、これだけの情報を文字を用いて詰め込むと、市民に届けようにも、読むのが大変だと感じる方が多いような気がする。本日、配布しているものも全て文章にしているが、いっそ箇条書きでまとめたいただき、耳で聞いたほうがわかりやすい方向けに動画や音声にして、QRコードを掲載すればページ数が減って印刷費も減り、読む方にわかりやすくなる。印刷費が減った分を他の予算に回せばよい。せつかくこれだけの情報が詰まったいいものがあるので、次の5年後の話しになるが、届け方に関する意見として参考にしていただければと思う。

(委員)

一般的に審議会や協議会といえ、専門職が集まって協議をするが、この審議会では多岐にわたる委員が参加し、本当にいろいろな意見があると感じた。

世の中は変わっていくし、状況も変わる。高校再編、リニア、三遠南信自動車道などの話しが出ているが、人が生きていくための基本となるものがあると思うので、それに基づいた審議会であるべきだと感じている。皆さんの意見を聞くと、時代に則った意見が多かった気がするが、伊那市が将来どうするべきかということについては、人が人であるべき、自然が自然であるべきということが基本としてあるべきではないか。時代に合ったものを作ることも大事だが、基本に立ち返って考えていただきたい。

(会長)

この総合計画審議会が開かれる前に、ここでワークショップが開催され、市民の皆さんから、こんな伊那市にしたい、こんな未来を描きたいという意見をいただいた。委員の中にも参加した方がいらっしゃり、そうした市民の声を生で聞いたと思う。

先ほど、この審議会、総合計画について、どのようなものかわからなかった、理解していなかったという話しがあったが、事前に総合計画とは何か、自分達は何をすべきかということをお私から皆さんにお伝えしておくべきだったかと反省をしている。

それから、委員の皆さんからも意見をいただいたところだが、今回は、10年という基本構想があって、その中の後半5カ年の計画を策定するということであるので、前期計画との整合性を取らなければいけない部分があった。しかしながら、社会情勢の変化が非常に激しい時代になってきているので、前期5年にあまり固執せず、全く新しいものとして見るべき部分もあるのではというところ、なかなか悩ましかった。もっと柔軟で大胆な内容としてもよかったのではという思いもあるが、どうしても10年という基本構想があつてのことなので、そこは大事にしていきたいというところであった。

そうした中で、皆さんのお話しの中でも出てきたが、この3～4年ほどは新型コロナウイルスが社会に大きく影響しており、今回の総合計画の中でも新型コロナウイルスに関係する部分は何事項か盛り込まれている。ただ、そういったものが出てくるだけのものではなくて、社会情勢というのは伊那市だけではなく世界と繋がっているところがあるので、そこら辺の繋がりをもう少し捉えてもよかったかと思う。

これからこれをどう発信していくのかということがある。委員の皆さんは、それぞれの分野、それぞれの団体の代表としてご出席いただいているわけであるが、一方で、一市民

でもある。そういった意味では、市民目線というのは委員の皆さんの目線でもあるわけがあるので、一市民としてこの審議会にご出席いただいたことをしっかり噛みしめていただき、関係団体の充て職としてだけでなく、一市民として発信をお願いできたらという思いがある。

それから、発信方法は非常に大事だと思うが、厚い冊子は全戸に配布するのではなく、概要版を配布するということだった。長野県にも「しあわせ信州創造プラン」という総合計画があるが、概要版については県全域ではなくて、上伊那は上伊那地域計画ということで作っており、この地域計画には、リアルな数値が載っていたり、現状分析を掲載している。ここに関しては、皆さんからいろいろなご意見があると思うが、私個人的には、総合計画は、夢を追う、夢を形にしていくための計画ではないかと思っているので、現実的な、あるいは、ネガティブな表現を夢のあるような表現にして、これからの伊那市が素晴らしいまちで皆さんが住みたくなるような内容の概要版であってほしいと思う。そこは事務局へお願いしておきたい。

皆様にご協力いただき会長職を務めることができた。この総合計画がいいものになるよう祈念する。

(委員(事務局))

本日欠席の委員からコメントをいただいているので事務局より紹介したい。

この計画をどのように市民が共有し、地域作りに活かすかという点を検討願いたい。次回の5ヶ年計画に際しては、今回の項目立てを再検討されたい。前の計画の項目を踏襲するのではなく、激しい情勢の変化の中では、柔軟に対応する必要性を痛感する。

最後になるが、何はともあれ、今回の会議では多くの意見が出され、事務局がそれを真摯に受けとる姿勢が感じられ、良かったと思う。

(4)その他

(会長)

最後に私からお礼の挨拶を述べたい。6月5日の第1回審議会から9回にわたり委員の皆さんにはしっかり議論していただき、この総合計画の答申案をまとめることができた。総合計画というのは初めにも申したが、伊那市のこれから5年を示す道標になる大事な計画である。そのために、伊那市の全分野にわたっての計画ということで、なかなかポイントを

絞るのが難しく、総花的になってしまうものである。そういった意味で、皆さんのご意見やご提言をどこまで反映できたかなという悩ましさはあるが、しっかり皆さんのご意見を大事にして、これを答申案として市長へ答申できるようにしていきたい

また、この総合計画の内容については、これから具体的に市の各部署において取り組んでいただくわけであるが、私達市民が暮らしやすく、また伊那市がこれからより発展していけるような形になることを願っている。

無事に本日のまとめに入ることができた。審議会の委員の皆様にご協力いただき、誠に感謝申し上げます。

最後になるが、皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、お礼の挨拶とさせていただきます。

(事務局)

基本計画および土地利用計画の答申は12月14日木曜日11時から11時30分に正副会長に対応いただくので、ご承知おきいただきたい。

答申後、市民、地域協議会、市議会からの意見募集を行うため、12月中には計画原案を公表する予定。計画原案は、伊那市公式ホームページ上で完成版をご覧いただけるので、ご確認をいただきたい。

計画冊子については、印刷製本の完成を3月末頃で予定しており、委員の皆様にご送付させていただきますので、届いたらご確認をいただきたい。

(会長)

事務局から12月14日に正副会長で答申との説明があった。今日いただいた意見について修正等が出てくるかもしれないが、その点については、正副会長に一任していただきたいので、ご了解いただければと思う。

(企画部長)

最後に市としてお礼の挨拶を申し上げます。はじめに私の言葉で申し上げたい。先ほど、全9回の審議を閉じ、委員の皆様から感想、熱い想い、市に対する叱咤激励をいただいた。私事であるが、私は11年前にこの審議会の担当課長となって以来、審議会も3回目である。

メンバーの選任方法等、いろいろなご意見をいただいたが、確かに10年一昔で時代を考えると、もう一度考えなければいけないと感じた。次の5年後まで私がこの立場を続けているかわからないが、実現できるように繋げてまいりたい。

それからご承知のとおり、総合計画が完成すると、その下には各課が持つ様々な実施計画がある。この中には、作って終わりというものがあるが、作った以上は効果が出ないと意味がないので、いかに実行性を高めていくかに頭を悩ませるわけである。そうした中で、何名かの委員から情報発信が大事との意見をいただいた。それも、旧来のやり方ではダメだ、そうゆう時代じゃないということであり、ターゲット、ツール等を考える時に、行政が一方的に発信するのではなく、官民一体となっているような双方向型の仕組みにかえていかなければいけないと、本日の意見を聞いて感じた。

また、私どもの部署は、全庁の調整役でもあるので、この9回の会議を通じていただいたご意見はぜひ反映していきたいと思っている。

情報発信の話で最近思っているのは、今、民間で注目される視点としてUGCと言われる手法がある。これは発信側が発信した情報を受けた受け手側が、さらにそれを発信していく、ロコミのSNS版みたいなもの。今、民間ではそういった取組みを進めている。民間の話だからということではなくて、これからは行政もそういった新しい視点を持ってやっていきたい。

多様性の時代と言われているが、まさにこの審議会は様々な立場の方の意見に触れる機会であり、5年ぶりではあったが新鮮に受け止め、考えさせられる点が多々あった。

ここからは事務局の作成した挨拶を読み上げたい。

今年の6月に、総合計画審議会委員に委嘱をさせていただき、延べ9回の会議を通じて、第2次伊那市総合計画後期計画についてご審議いただいた。吉田会長をはじめ、委員各位におかれては、大変お忙しい中、貴重なご意見をいただいたことに感謝を申し上げます。

会議の回数も多く、委員の皆様には多大なご負担をおかけしたかと思うが、資料をしっかりとご覧いただき、多くのご意見をいただくことができた。総合計画を策定する上で、大変重要な審議会であり、事務局としても、貴重な勉強の機会であった。

まとめていただいた答申については、12月14日に正副会長から市長に提出いただくことになるが、市としても答申の内容をしっかりと受け止めて、総合計画に反映したいと考える。今後については、審議会の答申と今後実施するパブリックコメント等の意見を踏まえて、来年3月に総合計画を決定する予定であり、総合計画の実現に向け、市民の皆様や

関係団体のご協力をいただきながら、取り組んでいきたい。委員の皆様におかれても、それぞれの立場で計画の推進にご協力をいただければと存じる。

吉田会長をはじめ、委員の皆様のこれまでのご尽力に、心より御礼申し上げるとともに、皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、お礼の挨拶とさせていただきます。

以上